

名寄南小学校 研究の概要

研究主題

進んで学び、協力して課題を解決する子どもの育成

～見通し・振り返りの充実と教師の働きかけの工夫を通して～

I 研究主題設定の理由

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人として社会で活躍する頃には、我が国は生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、人工知能（AI）等の技術革新等により厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されている。

このような時代において学校教育では、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することといった能力が求められている。その一方で、こうした能力はこれまでの学校教育で長年育成を目指してきた「生きる力」であることを改めて捉え直していくことが重要となっている。

こうした状況を踏まえ、平成29年に「育成を目指す資質・能力」の育成や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善等を重視した学習指導要領が告示された。

本校では、平成28年度から3年間にわたり、「できた！わかった！を実感できる授業改善」を目指し、算数科を窓口「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んできた。各種理論研修や指導案検討、授業研究等を通して、①「何ができるようになるか」という単元及び1時間の目標を意識した授業づくり、②子どもの問題解決を促すための「型のある授業」、③授業づくりや学級経営の土台としてどの学級でも確実に指導する「南小スタイル」が定着してきた。その結果、子どもが安心して学習を進めたり、ゴールを見据えて意欲的に学習に取り組んだりする姿が見られた。

しかしながら、教師と子どもや子ども同士の対話場面においては、何のために話し合うのかがあいまいになってしまったり、内容的な広がりや深まりが不十分ではなかったりすることがあった。また、習熟や振り返りの場面においては、その時間を十分に確保することができなかったり、振り返りのねらいがあいまいになってしまったりすることがあった。

以上のことを踏まえ、これまで本校で培ってきた「南小スタイル」や指導方法をベースにして、算数科における指導のさらなる充実を目指す「継承する研修」と、これまでの研修の課題に挑んだり他教科・他領域へ広げていったりする「発展させる研修」を行う。そうすることで、子どもが課題意識や必要感をもって進んで学んだり、自分の思いや考えを伝え合い協力して課題を解決したりすることを目指し、本研究主題・副主題を設定する。

「進んで学び」とは、子どもが課題意識や必要感をもち、学習に主体的に取り組む姿のこととしておさえる。また、「協力して課題を解決する」とは、自らの考えをもち、伝え合うことを通して、考えを広げたり深めたりし、個人や全体の課題を解決する姿のこととしておさえる。

II 本研究で目指す子どもの姿

本校では、研究主題を実現した子どもの姿を具体化することで、研究の成果と課題を明らかにしようと考え、次のように目指す子どもの姿を設定する。

- ①課題意識や必要感をもって進んで学ぶ子
- ②自分の思いや考えを伝え合い、学び合う子
- ③自らの成長や他者と学ぶ価値を自覚する子

※「学び合う」…伝え合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりすること

III 研究仮説及び研究内容

研究仮説 1	研究仮説 2	研究仮説 3
1 時間または単元の目指す姿の明確化によって、子どもが進んで課題解決に取り組むことができるだろう。	考えの形成や対話を促す教師の働きかけによって、子どもが思いや考えを伝え合い、学び合う力を高められるだろう。	自己評価や学習履歴などの振り返りを行うことによって、子どもが自らの成長や他者と学ぶ価値を自覚できるだろう。
研究内容 1	研究内容 2	研究内容 3
①目指す姿の具体化・提示 ⇒子どもの課題意識や必要感を高める指導の充実	①自分の考えをもたせる工夫 ⇒学習の系統性を踏まえ、既習を生かす指導の充実 ②話し合いを促すための工夫 ⇒学級ファシリテーターとしての関わり方の充実	①振り返りシートの活用 ⇒振り返りを意識した単元づくり・授業づくりの充実

IV 研究計画

1 年次（H31年度） 施行期	2 年次（H32年度） 修正・改善期	3 年次（H33年度） 発展期
○研究主題の設定 ○研究内容の検討と共通理解 ○南小スタイルの日常実践 ○学習指導案の作成 ○算数・外国語（外国語活動）における授業・単元づくり ○研究結果の整理と2年次研究の方向性	○2年次の重点の設定 ○研究内容の修正と検証 ○南小スタイルの改善と実践 ○算数・外国語（外国語活動）における授業・単元づくり ○新たな教科・領域への展開 ○研究結果の整理と3年次研究の方向性	○3年次の重点の設定 ○研究内容の再検討と検証 ○南小スタイルの改善と実践 ○様々な教科・領域に適応できる授業・単元づくり ○1単位時間、単元構成の工夫 ○研究全体のまとめと新研究の方向性

V 研究構造図

